

投資信託の本数は6,000本超

2017年10月末現在、日本国内で設定・運用されている投資信託の本数は、総数で6,149本になります。そして、そのすべてを合計した純資産総額は、107兆7,938億1,500万円です。日本銀行の資金循環統計によると、2017年9月末時点の個人金融資産は1,845兆円で、投資信託の占める比率は、わずか5.5%に過ぎませんが、それでも徐々に投資信託市場の規模は拡大してきています。

6,000本超からどう選ぶか

投資信託の問題は、まさにこの点に尽きます。

確かに、運用されている投資信託の本数が多いということは、それを購入して資産運用をしたい人たちにとって選択の幅が広がるので、それはよいことなのですが、あまりにも本数が多いと、どれを選べばよいのか分からなくなります。結果、販売金融機関のセールス担当者が売りたいと思っている投資信託を買わされたりします。

セールス担当者が売りたい投資信託は、基本的に、販売金融機関にとって稼ぎになる、つまりコストが割高な投資信託です。しかも買ってから1、2年程度で解約をすすめられ、別の投資信託に乗り換えさせられたりもします。これでは乗り換えの際の手数料がかさんでしまい、長期的な資産形成などできるはずもありません。

本来、投資信託は販売金融機関のセールスにすすめられたものを買うのではなく、自分で選ぶものです。ただ、自分で選ぶとしても、6,000本超の全体図が見えないという問題点があります。多くの場合、私たち個人投資家が投資信託の情報に接する窓口といえば、販売金融機関の窓口か、ホームページのいずれかだと思いますが、これだと、その販売金融機関が扱っている投資信託の情報しか得ることができず、全体像は見えてきません。

投資信託全体の純資産総額と運用本数

